

[令和5年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	普及広報事業				事業番号	008-061
担当部署名	文化観光	局	歴史遺産活用部 博物館	部	学芸	課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画 2025	施策 との 関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～		施策	(3) 類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進		
			有	取組の方向性	①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	大仙公園エリアへの来訪者数					
			有	現状値	29.4万人(2019年度)		目標値	60.0万人(2025年度)		
	堺市SDGs 未来都市 計画	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も		ターゲット	8.9		
			有	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—		目標値	—		

2	関連計画			
3	事業開始年度	昭和 55 年度	点検対象年度	令和 7 年度

4	实施根拠 (根拠法令、条例等)	文化財保護法・博物館法
---	--------------------	-------------

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	堺市博物館
---	-------------------------	-------

6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	市民及び本市への来訪者	対象数	単位
			—	—

7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	堺の歴史・文化の発信拠点として堺市博物館の魅力を広報して来館を促し、堺の歴史・文化・伝統を知ってもらうことで、市民の郷土愛の醸成を図ることを目的とする。
---	-------------------------	--

8 事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	○普及事業 ・歴史史料に興味を持つ方に対し、古文書講習会を実施 ・小・中学生向けの体験学習会を開催 ・夏休み期間中に未就学児と小・中学生及び保護者等を対象としたミュージアム・パス＆スタンプラリーを実施 ・博物館ボランティア制度の運営 ・ミュージアムグッズを作成 ○広報事業 ・SNSを用いたPR活動 ・企画展ごとに広報関係資料を作成 ・『堺市博物館研究報告』を作成
--	--

※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	
----------------------------	--

9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	委託業務の受注者
---	--------------------	----------

10	公民連携・協働事業	
----	-----------	--

Ⅱ. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標 点検対象年度
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
11	入館者数	人	目標値	—	—	140,000	170,000
			実績値	—	—		
			達成率	—	—		

当該指標を選定した理由	広報活動を行い観覧者数が増加することで、大仙公園への来訪者数の増加に貢献できるため。令和6年度に新たに目標値を設定
-------------	---

目標値の設定根拠・算出方法	展示観覧者総数／開館日
---------------	-------------

12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標		
				令和4年度	令和5年度	令和6年度		
				目標値	14	18		18
				実績値	19	20		
	体験学習会・古文書講習会の開催回数	回	達成率	136%	111%			

当該指標を選定した理由	普及啓発事業として体験学習会や古文書講習会を開催し、直接、堺の歴史・文化に触れていただくことが、観覧者数の増加に繋がるため。
-------------	--

目標値の設定根拠・算出方法	過年度までの実施回数から、休日・祝日を中心とした日程で、現状の職員数で実施可能な回数を設定。
---------------	--

令和6年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	普及広報事業	事業番号	008-061
-------	--------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト						※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）	
13	財 源 内 訳	項 目	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度		令和6年度
					当初予算	決算	当初予算
		事業費（a）	1,803	3,248	4,592	3,824	7,656
		国支出金					2,634
		府支出金					0
		市債					0
		その他（物品売払収入・徴収金収入）	0	1,690	1,310	1,025	1,800
		受益者負担金（使用料、手数料等）	1				0
		一般財源	1,802	1,558	3,282	2,799	3,222
14		人件費（b）	23,240	19,140	18,990	18,990	18,990
15		年間経費（c）=（a）+（b）	25,043	22,388	23,582	22,814	26,646

事業費の内訳										（単位：千円）	
16	事 業 費 内 訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
			R5	決算				R5	決算		
		報償費	R6	予算	60	60	パンフレット等作製・配布業務	R6	予算	450	450
			R5	決算	180	180		R6	予算	637	0
		旅費	R5	決算	54	54	冊子等作製業務	R5	決算	1,060	35
			R6	予算	116	116	ミュージアムグッズ作製業務	R6	予算	1,480	0
		需用費	R5	決算	522	522	ミュージアムショップリニューアル工事	R5	決算	897	897
			R6	予算	960	960		R6	予算	0	0
		広告料	R5	決算	600	600	各業務委託料	R5	決算	112	112
			R6	予算	750	750		R6	予算	2,050	633
		その他役務費	R5	決算	69	69	備品購入費	R5	決算	0	0
			R6	予算	133	133		R6	予算	1,350	450

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費					
17		区 分	単位	令和4年度	令和5年度
	①	入館者数	人	118,381	126,779
	②	上記①にかかる年間経費	千円	22,388	22,814
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	189	180
	備考（算出についての説明等）		普及広報事業の目的の一つとして、入館者の促進があげられるため。		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見	
18	令和4年度と比較して、効率的な事務執行等により決算額はほぼ横ばいとなったが、入館者数は約8,000人増加した（令和4年度118,381人→令和5年度126,779人）。特別展や企画展、体験活動を実施し、それらの広報業務を広く実施したことで、入館者増に貢献した。
KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）	
19	体験学習会等の普及事業の対象年齢は幅広く、普段は博物館を訪れることのない方々が来館されるきっかけとなる事業と位置付けている。特に小・中学生が来館し、堺の歴史・文化に興味をもってもらうことは、郷土愛の醸成を図り、次世代への来館者促進にも寄与する。また、魅力ある企画展を幅広く広報したことで、府内外からの来館者増に繋がり、ひいては大仙公園エリアへの来訪者数の増加に貢献したと考える。